

1 平成 28 年 3 月期 中間期の連結業績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績

（%表示は対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27 年 9 月中間期	40,683	△4.7	716	△57.1	870	△50.1	569	△34.3
26 年 9 月中間期	42,685	13.1	1,669	12.0	1,743	12.2	866	△3.9

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27 年 9 月中間期	79,646	37,618	45.8
27 年 3 月期	84,707	37,385	42.9

（注） 連結子会社は 9 社

2 平成 28 年 3 月期の連結業績予想（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	93,000	4.3	3,600	5.2	3,600	△1.0	2,200	4.7

※ 上記の予想は本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3 当中間期における事業の概況および下期の見通し

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益は好調な推移を続け、民間設備投資は緩やかな増加基調を示す傾向にあるものの、中国を始めとするアジア新興国経済の減速などの影響から全体として企業の慎重姿勢の持続が続き、先行き一部不透明感が出てきております。

当社グループが属する建設業界におきましては、復興事業や、首都圏の大型プロジェクトが進行する等、総じて需要は堅調に推移しましたが、新規工事案件の停滞や着工の遅れにより発注減の傾向となりました。

このような環境の下、当社グループでは、商品群のPR・営業活動の強化に取り組むとともに、採算性を重視した受注活動を行うことにより収益力の向上に注力してまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高 406 億 83 百万円（前年同期比 4.7%減）、営業利益 7 億 16 百万円（前年同期比 57.1%減）、経常利益 8 億 70 百万円（前年同期比 50.1%減）、親会社株主に帰属する中間純利益 5 億 69 百万円（前年同期比 34.3%減）となりました。

当下半期の見通しとしましては、工事遅れ等の影響が懸念され、公共投資、民間設備投資共に弱い動きに推移するものと想定しており、連結業績予想につきましては、売上高 930 億円、営業利益 36 億円、経常利益 36 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 22 億円を見込んでおります。

以 上